



ランドデザイン／ 地球環境規模の壮大な計画を考える

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会
会 長 五十嵐 俊弘

豊かな水に囲まれた日々の生活を何気なく送っている、この感覚にこそ危機感を持たざるを得ない、と言う記事を先日目にしました。一方では地球温暖化に代表される急速な環境の変化が指摘され、他方では科学技術をバックボーンとする循環型社会が日々推進されている現代において、改めて「水」の今後を考えたとき、我々に出来ることはどんなことでしょうか？ また、取り組まなくてはならないことはどんなことでしょうか？

この国の水事業は行政が主体となり、全ての地域に豊かな水が供給されておりますが、そのシステムの間接点で重要な役割を担っているのが我々水道事業者です。しかし、我々にはシステムの一部としてだけでなく、もう一歩踏み込んで、「水」について我々の目線で考え、取り組むことが求められています。

このような背景から、水を正業としている我々が、この限りある水資源のことを真剣に考え、また次世代を担う子供達のためにも全国に広がる会員ネットワークを活かしつつ、出来ることから始めようと取り組んだ環境問題研究事業が今期で10年目を迎えました。これまでこの事業に携わった会員そして関係者の方々に感謝の意を表すると共に、ご参加頂いた全ての方々の心の中に、環境に関する何らかの想いが芽生えたことと確信致します。

青年部の特徴は、感性だけで言い放った想いを即、仲間と共に、立案そして実行することが出来る、前向きなところにあります。この10年間、全国各地で繰り広げてきた環境問題への実績と、その活動の中で学んだノウハウを活かして、タイトルに上げた地球規模の環境を考える壮大なランドデザインも、今後視野に入れた活動を考えたいと思います。

この環境問題研究事業を10年間継続してきたことは何事にも変えがたい財産となりましたが、これに甘んじることなく、これからも方々にアンテナを張り巡らし、青年部セクターとして活動して参りたいと考えます。

報告書について

水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊
実行委員長 中井 啓仁



全管連青年部協議会の継続事業でもあります「水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊」も、平成10年度の第1回目からちょうど10回目の開催となりました。

「水」に携わる職業である我々青年部協議会が、環境保全のことを真剣に考え、何か出来るところから始めようと立ち上げたのがこの事業の始まりであります。

14単組・総勢331名の参加で始まった第1回目から数を重ね、平成17年には水に関係する5省（国土交通省・環境省・厚生労働省・農林水産省・文部科学省）の協力を得て開催されている「日本水大賞」において、我々の活動が評価されこの名誉あるコンクールの審査部会特別賞を受賞しました。

そして、今年度は全国で12単組が参加予定でしたが、天候の不具合等の理由で9単組・総勢540名の探検隊員により行われました。

このように毎年、全国各地で恒例行事となっているのが「水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊」であります。各単組の報告書を見ていただけるとわかりますが、参加者は各地域における関係行政や、関係団体、地域住民、及び我々水道工事業者であります。

小さな子供さんからお年寄りまで、幅広い年齢層の人々が一緒になって汗を流し、交流し、環境のことを考え、限りある資源である「水」を次世代にまで残すための活動が「水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊」であります。

これまでの10年を継承しつつ、より良い活動を目指し、この先15年、20年…と、この事業を継続していきたいと思っております。

この冊子をご覧になった方で、まだこの事業に参加されたことのない方は、ぜひ参加してみてください。きっと、今以上に環境について考え、ポジティブに行動するようになる事と思っております。

最後になりましたが、今年度もこの事業を実施するにあたり、趣旨を理解し、ご協力・ご参加いただきました多くの方々に感謝するとともに、来年度以降も引き続きご参加いただきますようお願い申し上げます。